

蓑田胸喜 みわたのきよ 評論家。明治二十七年一月二十六日熊本縣生れ、昭

和二十一年一月二十日歿（八五—一九四）。筆名蓑田哀歌。東京帝國大

學文學部京教學科卒。慶應義塾大學豫科、國士館專門學校の教鞭を執

る。大正十四年二井甲之等と原理日本社を結成。機關誌『原理日本』

を創刊して、國粹主義の立場から瀧川幸辰、美濃部達吉等自由主義者

を攻撃、昭和八年京大事件、十年天皇機關誌問題を起す。十二年帝大

肅正期成同盟を組織。終戦後、アメリカ民主主義に轉向する便乗主義

者を見く自殺。

著書に、『獨露の思想文化とマルクス・レーニン主義—マルクス主義の根

源的綜合的批判』（増訂五版・昭和四年一月十五日原理日本社）、『世

界文化單位としての日本』（昭和四年八月—二十八年中央教化團體聯合

會「教化資料」）、『「隨感錄」の現はれたる漢口前首相の精神分析

—政黨萬能思想としての不忠「民政」主義累積不可測禍殃を窮盡して

全國民の訴ふ』（昭和六年九月—二十七日原理日本社）、『第一我等は

如何にこの凶逆思想を處置すべきか？—東京帝國大學法學部赤化教授

對「しきこまのみち」學術的剖析』（二井甲之共著、神作廣吉
松田福松寄稿、

昭和九年六月—二十五日原理日本社「しきこまのみち叢書」）、『美濃

部博士の大權蹂躪—第二、我等は如何にこの凶逆思想を處置すべき

か』（昭和十年一月五日原理日本社「しきこまのみち叢書」）、『十

字入思想批判』（三版・昭和十五年十月十日原理日本社）、『昭和研

究會の言語魔術』（再版・昭和十五年十月十五日原理日本社）、『國

家と大學（東京帝大法學部）對する公開狀』（改新版・昭和十六年

一月一日原理日本社）、『學術維新』（昭和十六年七月一日原理日本

社、『日本世界観・世界精神史』(昭和十七年七月十五日發行)日本
社)等。